

地域と共にある 自主防災組織

ひとたび大規模な災害が発生すると、その拡大を防ぐには、個人や家族の力だけでは限界があり、危険や困難を伴う場合があります。

このようなとき、普段顔を合わせる隣近所の人々が集まって、互いに協力し合いながら、防災活動に組織的に取り組むことが必要。自主防災組織は、そのために作られたものです。

平時時には防災知識の普及や啓発、地域内の安全や設備の点検、防災訓練などを行います。

災害が発生したときには、情報を収集して住民に迅速に伝達。初期消火活動、被災者の救出や避難誘導、避難所の運営などの役割を持ちます。

市内全域では、116団体、行政区の72・4%が結成。

地域を良く知っているからこそ「細やかな対応ができる」、現場近くにいるからこそ「迅速な対応ができる」。このメリットを生かして、地域コミュニティを醸成して、地域コミュニケーションを進める団体があります。



1 令和元年に耐震化した公民館と自主防災会を運営する役員の皆さん
2 区内各地に掲示した一時避難所の標記
3 地域みんなでAED講習
4・5 危険箇所や避難経路を再確認する図上訓練
6 令和元年度には水消火器を使い消火訓練



松橋町 島区 — 平成26年結成 —

災害は人ごとじゃない
過信しないで

島区では、20年くらい前に浅川が氾濫し、10軒ほどが床下浸水。今は、川の拡幅工事も行われ、この辺は海から遠いし大丈夫と過信する人もいます。でも全国的に地震や水害が増えている、人ごとじゃないですね。熊本地震のときは、逃げようもなかったことを思い出します。

自主防災組織では、区内各地に海抜表示や一時避難所の表記をしてきて、改めて気付いたこともありました。AEDの扱い方も学んだので、何かあったときはいつでも対応できます。知っているのと知らないのでは全然違いますからね。

災害は忘れた頃にやってくる。私たちの住む地区だから、住民で力を合わせて自主的に取り組むことが重要だと思います。



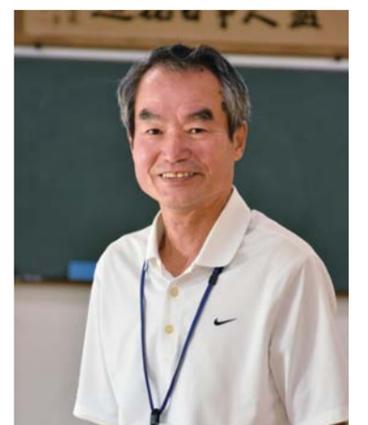
島区民 来海 邦夫 さん(80)
左：福島 勲 さん(79)

現地にいる者で避難対応できる
体制づくりを

島区自主防災会では、自治会とは別に、よりコンパクトな防災小組合を結成。令和元年には、住民156人が防災小組合ごとに集まり、公民館に誘導する防災訓練を実施。翌年からは、コロナ禍で多くは集まれなくても、安否確認の伝達や令和2年度に公民館に備えたAEDの取り扱いなど、訓練を続けています。

有事のときは、消防団員は災害現場に行きますし、平日の日中だと対応できる人も限られません。消火栓の扱い方や避難所までの安全な経路を把握し、その場にいる人だけでできる動きの確認も必要です。

来年度は、班内の防災小組合と自治会の小組合とを統合させます。より連携を取って、地域の防災力を高めていきたいです。



島区区長 中嶋 裕一郎 さん(74)